

# 新薬開発状況

## ■新薬開発への基本的取り組み

当社の新薬開発は主に探索研究に資源を集中投下し、従来より蓄積された創薬ノウハウを生かした医薬品候補化合物の創製に注力して、早期開発段階で積極的に海外企業への導出を図ることを戦略の中心としています。

この開発早期段階での導出を行うことで、導出先の迅速な化合物評価や開発が行われることにより、結果的に新薬開発スピードを上げることができると考えております。

これらの考えに基づき、2005年には以下の2品目が海外企業へと導出され、海外での開発が進められています。

### NC- 2300

2005年8月にベルキュラ社（米国）へと導出しました。非臨床試験において骨破壊の原因酵素（カテプシンK）を阻害し骨吸収を抑制する作用とともに抗炎症作用も認められています。

2008年春より米国にてフェーズIがスタートしました。また、米科学雑誌「サイエンス」（2008年2月1日）に当社と東京医科歯科大学研究員による研究論文が掲載されました。

### NC- 2400

2005年8月にセレニス社（仏国）へと導出しました。PPAR $\delta$ アゴニストをベースとした新しい作用機序をもつ動脈硬化症治療薬として注目を集めています。

2008年春より米国にてフェーズIがスタートしました。



ケミファ本社で行われたベルキュラ社とのミーティング。  
左から3番目がベルキュラ社CEOマイケル・ロング博士



ケミファとセレニス社の開発スタッフ会議終了後の懇親会にて（フランス）